



1787 (天明4)、金印 (漢委奴國王) が志加島 (しかのしま) で、発見されると同時に、上田秋成 (1734-1809) は「委奴」 (キド) 國と読み、北九州に、同音の地名、五文字の漢隸印と証明した。 <http://www.ukiyo-e.co.jp/21593>

57年、光武帝 (劉秀) (BC6-AD57) は、この金印を北九州の「キト國」に与えた (漢書)。これ以前、イト國は周、前漢、後漢に朝貢していたからである。

230s、漢の委奴 (キド) 國は、卑弥呼* (ひみか) の女王國・邪馬壹國以前の段階で、極く小さい共同体と見做される。しかし、漢の臣下として、つまり国家として認識されていた。

(古田) 「漢委奴國王」印 当時の主要な印譜を調べた結果、AがBに直接、授与。AがBのCに間接に授与の例は無い。つまり、三宅米吉の読み方、「漢の「わ」の「な」の国王」は誤読であり、「漢のみど国王」と読む。

(雁註) 過日、金印「漢委奴国王」の「委奴」の意味を解明できました。(2019-05-22)
古田先生は井尻など「井」の地名かと。確かに、そのような地名接頭語の意味もあります。

古代支那において、「委」は文字通り、「禾 (か)」、つまり稲が実り、穂が頭こうべ、を垂れている状態の象形文字です。そのような風習 (頭を垂れて、お辞儀をする) が古代支那にないので、光武帝 (劉秀) らは、「委」の人と呼びました。ニンベンを付けて、「委」の人 (倭) と呼んだのです。「委」の人々は人と会うと必ず「お辞儀をする」という慣習をもっていました。古代支那では、現代もそうですが、お辞儀の風習がありません。このため、「お辞儀」を周文、秦文の篆書 (てんしよ) の象形文字「委」で表現しました。

「委」は、「曲がる」意とあります (1940田中慶太郎/支那文を読む爲の漢字典)。御辞儀を「委」 (曲げる)。これまで「委」の原義を理解せず、二次的な「委 (まか) せる」、「委 (ゆだ) ねる」と意味と考えたからです。

- 1 「委」→原義は禾 (いね) が実り、頭を垂れる、象形文字→委の人々、「倭」、音が転じて、ワ
- 2 中華思想、東「夷」、西戎、北狄、南蛮の東夷エビス。背の低い、漁労民で、鯨面、委 (異) 面の人々。
- 3 「壹」 (イツ)、周の時代から、朝貢していた壹心 (いち、こころ)。
- 4 「倭」→「委」の人々として、後にニンベンを付した→「倭」と表示したため、原義の「委」の意味が失われた

これは三国志の紹熙本の目録に「倭韓」とあります。本文は「倭韓」です。「倭」は偏倭 (せむし) の意です。しかし、倭の使者全員が、背中が曲がっていた訳ではありません。「委」: 「曲がる」「屈む」人々というので、「委奴」 (お辞儀をする人々) と表現したものだと思います。倭の人々、そして現代の日本でも、皆、人と会うと「お辞儀」をします。しかし、諸外国では、御辞儀をしません。そのような習慣がないのです。真っ先に霊前の古田武彦 (1926-2015) 先生に御報告したかったが... (合掌)

1971邪馬台国はなかった、1973失われた九州王朝、1975盗まれた神話、朝日新聞社

酒井 雁高 (がんこう) 学芸員 curator [浮世絵学**] 浮世絵・酒井好古堂

[浮世絵学] 文化藝術懇話会 浮世絵鑑定家 gankow@gmail.com

100-0006東京都千代田区有楽町1-2-14 電話03-3591-4678 Fax03-3591-4678